

平成30年度光市行政改革市民会議【要旨】

開催日時 平成31年3月19日(火)
13時15分～15時15分
開催場所 市役所本庁大会議室1、2号

1 部長あいさつ

今年度は、光市公共施設等総合管理計画等を策定した年のように、計画を策定したり、策定した計画に対して意見を交わすということよりも、策定した計画の進捗管理を行う段階ということで、前回の開催からしばらく期間が空きましたが、本日は最後までよろしく願いいたします。

後ほど新年度の予算(案)の概要についての説明がありますが、新年度の一般会計の予算総額は、199億9千万円となり、平成19年度以来、12年ぶりに200億円を下回る規模となりました。昨年の7月豪雨災害を受けて、発災直後から復旧に向けての補正予算を5回にわたって計上し、復旧に努めているところですが、その繰越事業を合わせて、新年度予算(案)では約28億円の「安全・安心」に視点をおいた予算を確保しています。その中には、災害復旧だけではなく、小中学校のエアコン整備などの「安心・安全」に関わる事業も含まれております。災害復旧工事に関しては、まだ入札に付していない事業もありますが、早急に事業着手を行い速やかに復旧できるよう行政としてしっかり努めてまいりますので、委員の皆様におかれましても様々な点でお力添えいただければと思います。

また、もう一つの本日の議題は、公共施設マネジメントでございます。公共施設等総合管理計画は、20年にわたる長期計画であり、人口減少時代の中で生き残っていくために光市の身の丈にあった公共施設の総量をどの程度にするのか考えるという大きな命題を突きつけられた計画です。

人口に関してショッキングなことですが、平成31年2月1日現在での光市の人口が5万人を割りました。当然、人口減少に向かうことは想定して、色々と対策を講じていますが、平成27年度国勢調査において約5万1千人で、次の平成32年度の国勢調査で5万人を切るだろうと想定していましたが、速報値ではありますが、初めて5万人を切ったということは私にとっては衝撃的でした。このような状況のなか、移住・定住政策をどんどん進めていかなければならないのは当然であり、同時にそうした時代に対応していくための計画が公共施設等総合管理計画であります。将来本当に生き残っていけるまちを作るために今があるという覚悟を持ってまいりたいと思いますので、本日は忌憚のないご意見を頂きたいと思います。

2 議題

(1) 平成31年度の予算(案)と行政改革の取組みについて

平成31年度の予算(案)と行政改革の取組みについて、事務局が説明した後、各委員からご意見、ご提言を受けるとともに、意見交換を行いました。

【委員意見及び事務局回答要旨】

委員

過去からの経緯で、青少年健全育成市民会議、社会福祉協議会、コミュニティ協議会、連合自治会など様々な組織を通して各地域のために予算を配分していますが、整理統合し一元化して予算を配分した方が効率的ではないでしょうか。

また、小学校とコミュニティセンターの複合化の予算が計上されていますが、これに関連して、島田地区、中島田地区、上島田地区で考えた場合、コミュニティセンターが所掌する小学校の割り振りの考え方はどのようになっているのでしょうか。

事務局

予算の配分の仕方というよりも、地域のコミュニティの運営の仕方の問題が大きいように思います。過去からの流れの中で、青少年健全育成市民会議、社会福祉協議会、連合自治会、旧公民館の4つの大きな組織がありますが、それらを合体し融合させたものがコミュニティ協議会と考えています。ただし、地域ごとの4つの組織の関係性などの特殊事情もありますので、今すぐ一律に、この考え方を強制的に適用していませんが、会計も含めて徐々にコミュニティ協議会に融合していければと考えています。

コミュニティセンターの所掌するエリアについては、基本的には中学校区を一つのコミュニティのエリアと考えています。学校の再編については大きな課題であり、教育委員会でも中学校区に小中一貫校を置くことを検討しており、その具体的な計画により、コミュニティセンターをどこに配置していくかについても影響してくると思います。

委員

補助金や助成金については最終的にコミュニティ協議会へ集約されていく方向性は理解しましたが、行政の情報の流れの一元化も考慮していただきたい。

事務局

過去からの経緯があり、今すぐにコミュニティ協議会への集約は難しいかもしれません。時間がかかる課題でもあることから、各地域におかれましても、コミュニティの各組織間の情報の共有に取り組んで頂きますようお願いいたします。

委員

平成30年7月豪雨災害では、浅江地区や三島地区に被害が出ましたが、浅江コミュニティセンターや三島コミュニティセンターの建替えの検討はされたのでしょうか。

事務局

東荷コミュニティセンターと塩田コミュニティセンターは、農協の施設と合築している上に、かなり老朽化が進んでおり根本的な修繕もできないような状況であることから、光市公共施設等総合管理計画では近隣の学校施設との複合化を検討するとしており、平成31年度予算に実施設計費用を計上しています。三島コミュニティセンター、周防コミュニティセンター、浅江コミュニティセンターについての要望も把握しており、この3つのコミュニティセンターをどうしていくかは我々にとっての大きな課題となっております。特に三島コミュニティセンターについては、今回の災害では水没し、避難所として使用できな

ったという現実問題があります。こうした中で、まずは、防災機能強化ということで概要の12ページのとおり、本庁舎の建替えから軌道修正し、市全体として防災機能を底上げしていきたいとの方針を持っています。決して今回被害があった地域のコミュニティセンターの取扱いについて軽んじているわけではなく、具体的にどうしていくのかについても今後考えていかなければなりません。特に三島コミュニティセンターについては、学校の再編も含めて現在地での建替でよいのかということも含めて検討していく必要があると考えています。

会長

平成32年度に小中一貫校制度を導入されますが、島田中学校区と大和中学校区にあるそれぞれの校区の4つの小学校が1つの中学校への一体校になるにあたっての事前準備等の予算は計上されていますか。

事務局

「光市立学校の将来のあり方検討会議」でまとめた案を教育委員会が各地域に説明していますが、小中一貫校制度は教育のカリキュラム等の流れを一貫して行うというソフトの仕組みです。建物等のハードも含めて一体校にするには、1小学校1中学校の地域であっても、4小学校1中学校の地域であっても、長寿命化計画を策定する上で学校の再編を踏まえた計画を作る必要があることから、当然、時間がかかります。したがって今回の予算(案)では、小中一貫制度の導入に係る事前準備等の予算については計上していません。

委員

概要の19ページの「民間バス運行助成事業」についてですが、高齢のため運転免許証を返納したことから、時々「ひかりぐるりんバス」を利用して、現在の光総合病院まで通っています。現在の光総合病院は交通の便の良いところにありますが、新光総合病院は小高い丘にあるため、バスを利用している通院者は心配していますので、新光総合病院においても引き続き「ひかりぐるりんバス」を利用できるようにしてほしいと思います。

事務局

3月25日号の広報に掲載されますが、新光総合病院が開院すると「ひかりぐるりんバス」、防長バス、JRバスがいずれも全て新光総合病院に乗り入れるルートへ変更します。「ひかりぐるりんバス」については、平日6便、土・日曜日、祝日は5便乗り入れをします。

また、他の委員の皆様におかれましても、公共交通機関の維持、存続のため、ぜひ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

委員

概要の18ページ「6 すみたい光！若者を呼び込む移住・定住全力プロジェクト」ですが、予算総額が199億9千万円に対して、このページに掲載されている3つの事業を合計しても約240万円という規模で予算の総額に対してわずかな事業費のように思いますが、光市としての力の入れ具合としてはどうなのでしょう。また、光市役所として若者の人口が増えない原因は何だと考えていますか。

事務局

移住・定住に対する行政の力の入れ具合ということですが、平成30年度に広報・シティ

プロモーション推進室を設置してプロモーション活動を始めました。また商工観光課でもプロモーション活動を実施するなど、様々な部署で、手探りですが、プロモーション活動をしており、予算規模に関わらず、光市として力を入れている部分です。概要の18ページにある「「きゅっと×ハグ〜ン」のHUGプロモーション事業」にあるように、我々の狙いとしては、ウィン・ウインの関係で全国規模の民間企業の発信力をうまく活用し、光市の認知度を向上させていきたいと考えています。

若者の人口が増えない原因については、光市も地方都市の一つであり、首都圏への一極集中といった構造的な問題があります。また、最近の人口流出について分析してみると、女性層の高学歴化や社会進出にともなう若い女性層の転出の増加があると考えられます。これに対しては、雇用の場の確保、起業、創業の支援に力を入れるなど対策を講じていきたいと考えています。

委員

光市のプロモーションに関して「売り」は何でしょうか。費用対効果を考えた場合、闇雲にプロモーションを行うのではなく、現状を分析することにより効果的な事業が実施できると考えます。

事務局

単に名前を売るだけでないプロモーションとして光市の「売り」は、「おっばい都市宣言」に基づく子育て支援です。「おっばい都市宣言」を市ぐるみで行ったユニークさと発信力をあわせてプロモーションをしていくことが、第一義的なテーマになっています。

委員

子育て支援の具体的な「売り」は何でしょうか。

事務局

産後ケア等の制度は他の市に比べて充実していると思います。また、今回の予算（案）で計上した「乳幼児・子ども医療費助成事業」における未就学児に対する医療費助成について、所得制限を撤廃したことなどです。

委員

所得制限撤廃は個人的にはインパクトがあると思います。それによってどれだけ移住者が増えるかについて、データを蓄積した上で分析していただければと思います。

(2) これまでの公共施設マネジメントの取組みについて

これまでの公共施設等総合管理計画の取組み及び大和コミュニティセンター複合施設について、事務局が説明した後、各委員からご意見、ご提言を受けるとともに、意見交換を行いました。

【委員意見及び事務局回答要旨】

会長

資料に記載してあるとおり、市民の皆さんの理解がなければ20年間で総延床面積を20%削減するのは難しいと思いますので、現在の進捗状況等を市民の皆さんに知ってもら

うために、もっと広報活動に力をいれるべきだと思います。

事務局

光市公共施設等総合管理計画は本市における公共施設マネジメントの大きな方針です。で、実行に移していく際には、個別施設計画を策定していく必要があります。特に学校施設については平成32年度に策定する予定です。また、市営住宅については、既に策定済みの「光市営住宅等長寿命化計画」を平成32年度に改定する予定ですが、残す住宅と残さない住宅を色分けし、残す住宅については改修等を行い、残さない住宅については、入居者がいることから一朝一夕にはいかないと思いますが、移転補償を払って取り壊していくことを考えています。

延床面積で大きな割合をしめる学校と市営住宅について着実に実行していければ、目標は達成できるのではないかと考えています。

3 その他

任期を終えるにあたり、市民会議への感想、行政改革の取組み全体への意見について、委員全員に発言をお願いしました。

委員

まず、3月21日（木）に大和コミュニティセンターが竣工されます。市役所の職員の皆様におかれましては、ご尽力いただきありがとうございます。建物ができて中身が無ければ何にもならないと思いますので、これからは中身を入れていく作業が大変重要になってくると思います。引き続きよろしく願いいたします。

また、本日の説明でもありましたが、東荷と塩田のコミュニティセンターが近隣の小学校と複合化されることについて、幅広い世代の人が集える場が新たに出来ることは非常に喜ばしいことだと思います。廃止という言葉を知ると、その地域に住む住民は気分が落ち込みますが、こうした集いの場ができるというのは気分が嬉しくなります。これからも住民の気持ちがるくなるようなことを、施策に反映させるようお願いいたします。

委員

「学校を活用したコミュニティセンター複合化事業」は子どもが少なくなる時代を迎え、非常に良いと思います。この2年間で行政の様々なことを知ることができました。ありがとうございました。

委員

エコライフ補助金事業を昨年利用させていただきました。その時の環境政策課の職員の対応がものすごく良くて、問い合わせた時に的確で分かりやすい説明で窓口サービスが向上していると感じました。エコライフ補助金を申請される方が一層増えれば良いと思いました。

また、先ほど「おっばい都市宣言」の話がありましたが、若い女性に対して、光市は安全で住みやすく、1人暮らししやすいまちであるといったイメージを持ってもらうことが大切だと思います。

また、親しみやすい市政といった観点から、例えばアプリケーションのラインのようなチ

チャット形式の情報発信も良いのではないのでしょうか。横浜市はごみの分別にチャット形式を取り入れており、「イーオ」というマスコットを使い、例えば「傘」と入力すると、「傘」をごみとして出す方法をチャット形式で回答するようになっています。このような取り組みは政令指定都市のような規模の自治体であれば可能だろうと思いますが、光市においても特定健診のお知らせのような市民生活になじみの深い情報をチャット形式のアプリケーションを用いて発信するのも良いと思います。

委員

東荷コミュニティセンターと東荷小学校を複合化することや、小中学校の再編のことについて気になっているところでしたので、今回、様々な話が聞けてよかったですと感じています。東荷小学校は児童数が少ないことから、何年か前から事務員がいない状況で、小学校の草刈等の清掃作業も保護者だけでは手に負えないことから、地域の方々に協力してもらっている状況です。今後、コミュニティセンターとの複合化により、さらに地域の方々と一緒に子どもたちが平穏無事に過ごせる環境を整備していけることを期待しています。

委員

このような会議に初めて参加したのですが、室積地区の少子化や過疎化のことなど、私自身、知らないことがたくさんあり、大変勉強になりました。私は母子保健推進員をしており、これからも「おっばい都市宣言」のまちとして何かPRできるように協力していきたいと思っています。ありがとうございました。

委員

2年間ありがとうございました。

この2年間で感じたことは、対前年実績主義からまだ抜けきれてないと感じました。行政ですので、前年度事業を反省しながら継続していくことは大事だと思っていますが、少子高齢化で財政的に厳しくなる状況では、綺麗ごとでは済まされないだろうと考えています。光市を輝かしい未来のあるまちにしていくためには、新たな視点での施策を打っていく以外ないと思います。大変だとは思いますが、行政改革という意識をもってさらに進めて欲しいと思います。

委員

光市公共施設等総合管理計画（概要版）を拝見して、正直、厳しいなと実感しました。人口が5万人を割って、これから約40年後には約3万6千人程度になり、一般会計の中期財政見通しでは、歳出が歳入を上回る状況のなか、公共施設は今後20年で20%減らしていく目標ということですが、個人的には、30%、40%削減してもいいのではないかと感じました。

市民アンケートの結果を見ますと、どんどん公共施設を減らしていった欲しいということがうかがえます。今後は、何をどういう風に20%削減していくのかといった具体案を個別施設計画に落とし込んでいく必要があると感じました。2年間ありがとうございました。

委員

2年間お世話になりました。ありがとうございました。

「おっばい都市宣言」のまちとして、若者をいかに呼び込んで、子育てをしてもらうかと

いう話がありました。私もこの自然に囲まれた光市で子育てをしてよかったと思いますが、やはり進学を期にこの光市を出て行き、今度就職するときに光市に帰ってきたいという言葉あまり聞きません。自然に囲まれた光市は好きだけでも、ここでは暮らしができないということ子どもや子どもの友達から聞きます。働く場がないと光市に帰ってこられないという現実があるのではないかと思います。最近、国道を車で走っていても空き地が増えていて、自宅の周辺の三方が空家になっており、なかなか厳しいとこの一年、特に感じています。

どういう風に光市を魅力あるまちにしていくかは一朝一夕には答えがでないと思いますが、みんなで知恵を絞っていかないと、高齢者ばかりが残った光市になってしまうのではないかと危機感があります。

委員

2年間、お世話になりました。ありがとうございました。

私はこのまちで事業させていただいて、子どももこのまちで学校に通っていて、光市が寂れるのを本当に想像したくないというのが、一市民としての率直な思いです。先ほどの人口を増やそうという施策には注目をしています。例えば、5万人を割らないのではなく、10万人に増やすにはどうすればいいのか、市民の方を巻き込んで知恵を出していただいて、何とか光市が残って欲しいという思いだけです。

この間、子どもを虹ヶ浜に連れていったところ、子どもが「冬の海は何も無いね。夏は人が多いよね。」と言いました。例えば、冬に虹ヶ浜を使って何か出来ないのかなど、できることを少しずつやっていって、光市をアピールして欲しいなと思います。

会長

2年間ありがとうございました。

2年間で一番印象的なことは、光市公共施設等総合管理計画の進捗状況です。光市に住んでいながら光市の公共施設の状況が良く分かりませんでした。光市と同じぐらいの規模の自治体と比較した場合に、学校と市営住宅が多いということに驚きました。何故、このような状態になったのかというと、過去のからの経緯があり、行政の継続性という観点から変えられないところだったのだろうと推測します。しかし、人口が減っていくのは確実に目に見えている状況です。そうした中で、どういう形で市民ニーズに伝えていくかということが一番難しいところだと思います。行政改革というのは全てがマイナス志向ではなく、いかに時代の変化と市民のニーズに伝えていくかということが大きな目標だと思います。そのような中で亀山住宅の廃止など、延床面積の削減を着実に実行していく様子を見るにつけ、小中学校の再編等も考慮すると、20%削減はきつい数字ではないと思います。問題は市民の皆さんの理解をどうやって得るかということだと思います。公共施設マネジメントに関して、20%削減が市民の皆さんの共通の掛け声となってくれば良いと思います。

また、これからの先、市民ニーズの変化をどのように把握するかということも課題です。先ほど、ある委員がSNSの話がされていましたが、やはり時代の趨勢であるデジタル化を進めるためにはインフラ部分が非常に大事になってきます。他の自治体との競争にもなるので、是非その点も熟慮していただきたいと思います。

委員の皆様、2年間本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

事務局

2年間、本当にありがとうございました。

冒頭申し上げましたとおり、光市公共施設等総合管理計画の進捗管理という大きな命題を突きつけられています。弘会長からもご提言をいただきましたが、しっかりと公共施設マネジメントをPRしていく意識をもって、それが行政と市民の皆様の共通のテーマとなっていけば良いと思います。

この市民会議では、委員の皆様の意見を聴きたいという面と、一方で行政側の施策に対する思いを知ってほしいという面もあります。次期も委員をお願いする方もおられますが、引き続きよろしくお願いいいたします。2年間、どうもありがとうございました。